

糖鎖による軸索再伸長の阻害

講師：尾崎智也 助教

名古屋市立大学 大学院医学研究科
神経毒性学分野



日時：2023年2月27日（月）17:00～
場所：名古屋市立大学桜山キャンパス
医学部研究棟11階 講義室B

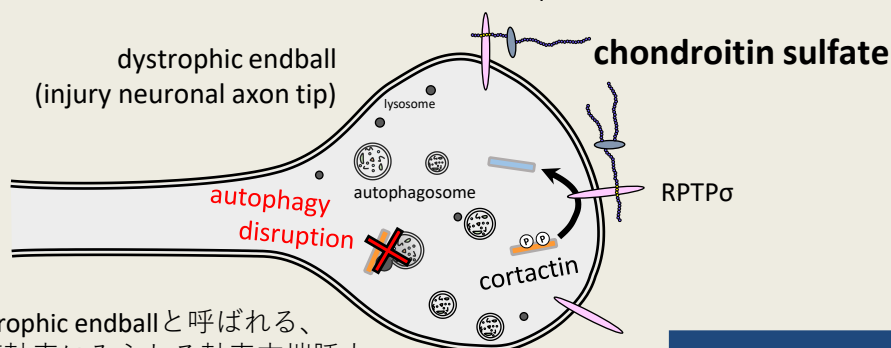
本セミナーはZOOMによるオンライン配信も致します。オンラインでの参加は下記URL又はQRコードからログインしてください。

URL：<https://us02web.zoom.us/j/85662555640>



神経科学の巨人、カハール博士は1928年に「完成した中枢神経系は損傷を受けると二度と再生しない」と記述している。そして、現在もなぜ神経軸索は再生・再伸長できないのかについて、不明な点は多く残る。我々は、最近、軸索再伸長に対する阻害機構の一端を明らかにすることができた。それは、損傷部位に蓄積する糖鎖、コンドロイチン硫酸がアクティブリガンドとして、神経細胞の脱リン酸化酵素を活性化し、軸索末端部でのオートファジーを中断させるものであった。この成果は、軸索損傷に対する有効な治療点を提案するものである。本セミナーでは、最近のデータと合わせて紹介したい。

参考文献：Sakamoto K[†], Ozaki T[†], et al., Glycan sulfation patterns define autophagy flux at axon tip via a PTPR σ -cortactin axis. *Nat. Chem. Biol.*, 15, 699-709, 2019 [†]equal contribution



図：dystrophic endballと呼ばれる、損傷軸索にみられる軸索末端腫大。

世話人：山川和弘（医学研究科・神経発達症遺伝学分野）

TEL: 052-851-5612, E-mail: yamakawa@med.nagoya-cu.ac.jp